

住民行動と都市機能からみる地域間依存度に関する研究 —佐伯市における生活・環境圏域に関する研究 その3—

正会員 ○寺田 充伸*¹ 同 佐藤 誠治*² 同 小林 祐司*³
同 姫野 由香*⁴ 同 椎葉 憲亮*¹ 同 野口 浩平*¹

地区とコミュニティ 都市機能 小規模集落
住民意識 依存度

1. はじめに

その1では、生活環境の違いから集落の類型化を行い、各集落の特徴について明らかにした。その2では、アンケート結果より年代ごとに生活環境認識の相違点とその要因について考察を行い、各年代の総合評価にどのような要因が影響しているのかを明らかにした。その3では、アンケート集計結果から地域住民の行動圏域や移動先について考察を行い、各地域が機能的にどの地域に依存しているかを明らかにすることを目的とする。

2. 研究の方法

本研究でも、2009年に行った佐伯市における生活環境と生活圏域に関するアンケート集計結果を基に分析を行う。アンケートによって得られた①地域間の交流先、②買い物の利用先、③病院の利用先、④福祉施設(デイサービスセンター・福祉センターなど)の利用先、⑤公共施設(住民票・年金関係の手続き・図書館など)の利用先について大字ごとに集計を行い、その結果を地図上に表す。また、その結果を旧市町村ごとに集計したものを表にまとめる。そこから考察を行い、現在の佐伯市における旧市町村域ごとの依存関係について明らかにする。

3. 住民行動と各都市機能からみる地域間依存度

ここでは、各地域の大字ごとに集計を行い住民行動と各都市機能における地域間依存度について考察を行う。旧市町村ごとの住民行動と各都市機能における集計結果を表1~2に示す。表中の値は、各地域の有効回答数に対する割合を示す。また、大字ごとの集計結果を地図上に表したものを図1~2に示す。なお本稿では、買い物の利用先、病院の利用先のみ示す。

3-1. 買い物の利用先について

ここでは、最寄品(生鮮食品・日用雑貨など)の買い物に行く際、主にどの地域に行くか回答してもらい、その結果から依存度を把握する。表1、図1より旧上浦町、旧鶴見町、旧米水津町、旧直川村においては旧佐伯市に対する依存が最も高い値を示しており、次いで地域内への依存が高い値を示している。旧佐伯市では、地域内への依存が99.04%と高くなっており、他の地域への依存はほとんどみられない。旧蒲江町、旧弥生町では地域内への依存が最も高い値を示しており、次いで、旧佐伯市への依存度が高い値を示している。旧宇目町においては豊後大野市三重町への依存度が43.33%と高い値を示していることも特徴的である。

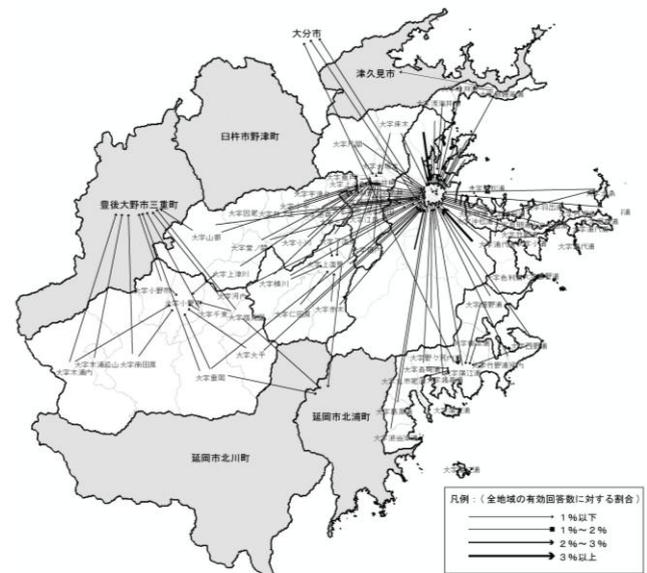


図1 アンケート結果による買い物の利用先

表1 アンケート結果による買い物の利用先

旧市町村	目的地															合計	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮		
	旧佐伯市	旧上浦町	旧鶴見町	旧米水津町	旧蒲江町	旧弥生町	旧直川村	旧本匠村	旧宇目町	大分市	旧三重町	臼杵市	津久見市	延岡市	特になし		
出発地	旧佐伯市	99.04	-	-	-	-	-	-	-	0.64	-	-	-	-	0.32	100.00	
	旧上浦町	76.47	17.65	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.88	-	-	100.00	
	旧鶴見町	49.18	-	45.90	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.92	100.00	
	旧米水津町	57.14	-	28.48	14.38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.00	
	旧蒲江町	34.72	-	-	-	63.89	-	-	-	1.39	-	-	-	-	-	100.00	
	旧弥生町	45.12	-	-	-	-	53.66	-	-	-	-	-	-	-	1.22	100.00	
	旧直川村	56.47	-	-	-	-	7.06	35.29	-	-	-	-	-	1.18	-	100.00	
	旧本匠村	39.38	-	-	-	-	46.43	-	-	3.57	-	7.05	-	-	-	3.57	100.00
	旧宇目町	8.34	-	-	-	-	-	-	-	45.00	-	43.33	-	-	3.33	-	100.00

*単位は「%」

3-2. 病院の利用先について

ここでは、病院を利用する際、主にどの地域に行くか回答してもらい、その結果をもとに依存度を把握する。表2、図2より旧上浦町、旧鶴見町、旧米水津町、旧蒲江町、旧弥生町、旧直川村、旧本匠村においては旧佐伯市への依存が最も高い割合を示しており次いで地域内への依存が高い値を示している。旧佐伯市においては、地域内への依存が94.98%を占めており他の地域への依存は大分市以外みられない。旧宇目町においては地域内への依存が最も高い割合を示しており、豊後大野市三重町への依存が28.07%の割合を示していることも特徴的である。また、大分市においては比較的割合は低いながら6地域からの依存がみられることも特徴的である。これらの考察から、病院の利用先において旧佐伯市への地域間依存が高い値を示していることがわかった。

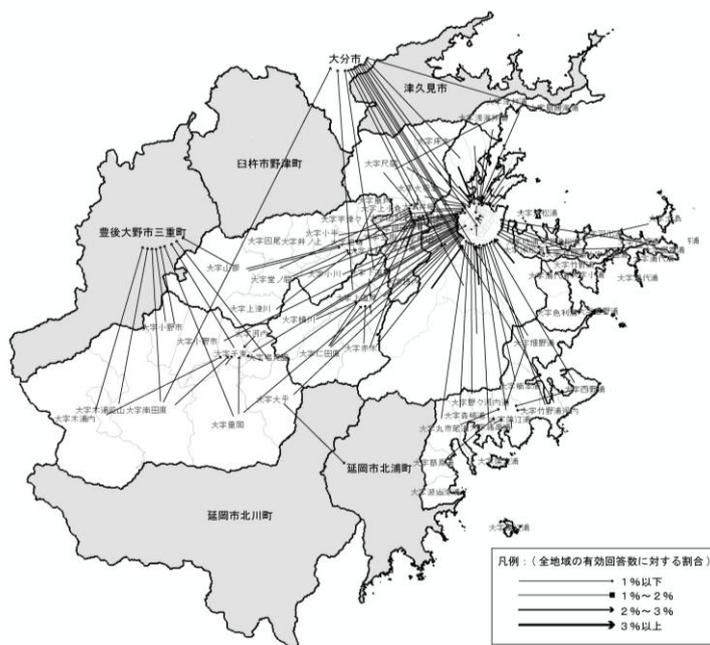


図2 アンケート結果による病院の利用先

4. まとめ

本稿では、佐伯市の地域ごとに住民行動と都市機能から地域間依存度について把握した。

「地域間の交流先」、「買い物の利用先」、「病院の利用先」においては旧佐伯市への地域間依存度の値が高くなっている。「買い物の利用先」、「病院の利用先」については特に高い値を示していることから、商業施設や病院などの施設が旧佐伯市に集中していることが考えられる。

「福祉施設の利用先」、「公共施設の利用先」の項目においては地域内への依存が高い値になっている。このことから、これらの施設は各地域内で充足しているといえる。

「旧佐伯市」においては、各項目において地域内への依存が高いことから、地域内で自己完結できているといえる。「旧弥生町」、「旧蒲江町」においては、旧佐伯市への依存がみられるが、各項目において地域内への依存が高くなっていることから、ある程度地域内で自己完結しているといえる。「旧上浦町」、「旧鶴見町」、「旧米水津町」、「旧直川村」、「旧本匠村」、「旧宇目町」ではほとんどの項目で、地域内への依存が低いことから、旧佐伯市などの他地域へ依存してしまっているといえる。また、「旧宇目町」においては、豊後大野市三重町への地域間依存度の値が高くなっていることから、市町村域を超えた依存関係があるといえる。このことから今後、隣接する市町村あるいは、圏域を超えた連携が必要になると考えられる。

これらの結果から、現在の佐伯市において、旧佐伯市が中心的な役割を果たしていることが明らかになった。

今後、より具体的な施策を行う上で、本稿で明らかにした各地域の生活圏域や地域間依存度が、現在の佐伯市の都市構造とどのような関係があるのか把握することが重要であり、今後の課題である。

謝辞:

本研究を進めるにあたり、アンケート調査にご協力頂いた、佐伯市役所ならびにアンケート調査にご協力頂いた、佐伯市の住民の方々に対し、記して感謝申し上げます。

表2 アンケート結果による病院の利用先

		目的地															合計	
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮		
旧市町村		旧佐伯市	旧上浦町	旧鶴見町	旧米水津町	旧蒲江町	旧弥生町	旧直川村	旧本匠村	旧宇目町	大分市	旧三重町	臼杵市	津久見市	延岡市	特になし		
出発地	旧佐伯市	94.98	-	-	-	-	-	-	-	-	5.02	-	-	-	-	-	100.00	
	旧上浦町	68.75	18.75	-	-	-	-	-	-	-	6.25	-	-	-	-	6.25	100.00	
	旧鶴見町	64.82	-	29.63	1.85	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.70	100.00
	旧米水津町	75.00	-	-	25.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.00
	旧蒲江町	57.14	-	-	-	39.29	-	-	-	-	3.57	-	-	-	-	-	-	100.00
	旧弥生町	66.20	1.40	-	-	-	29.58	-	-	1.41	1.41	-	-	-	-	-	-	100.00
	旧直川村	57.14	-	-	-	-	14.28	21.43	-	-	4.29	-	-	-	-	-	2.86	100.00
	旧本匠村	39.13	-	13.04	-	-	-	8.70	-	30.43	-	-	8.70	-	-	-	-	100.00
旧宇目町	31.58	-	-	-	-	-	-	-	-	33.33	5.26	28.07	-	-	1.76	-	100.00	

*単位は「%」

*1 大分大学大学院工学研究科博士前期課程
 *2 大分大学工学部福祉環境工学科・教授 工学博士
 *3 大分大学工学部福祉環境工学科・准教授 博士(工学)
 *4 大分大学工学部福祉環境工学科・助教 博士(工学)

*1 Graduate Student, Oita Univ.
 *2 Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng.
 *3 Associate Professor, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng
 *4 Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng